

# 水戸市の維持向上すべき歴史的風致

計画期間  
平成31年度(2019)～2028年度

水戸市は、古代から歴史と文化にはぐくまれ、江戸時代には関東でも有数の規模の城下町として発展した。空襲などにより多くの歴史的な建造物は失われたものの、弘道館や借楽園、水戸城の土塁や堀、八幡宮をはじめとした歴史的資源が今も残っている。

本市の維持向上すべき歴史的風致は、梅まつりに代表される借楽園や千波湖周辺、文武の伝統が息づく弘道館・水戸城跡周辺、郷土の祭礼にみる歴史的風致に整理することができる。

## 1.梅まつりに代表される借楽園や千波湖周辺の歴史的風致

借楽園(国指定史跡・名勝地)は水戸藩第9代藩主徳川斉昭により造園され、梅の名所として知られる。

明治以降に観梅の催しが始まり、梅まつりとして本市を代表する伝統行事となった。また、隣接する千波湖は借楽園の借景となり、周辺の緑地とあわせて、今も人々に親しまれている。



現在の梅まつりの様子

## 2.文武の伝統が息づく弘道館・水戸城跡周辺の歴史的風致

弘道館(正庁などが重要文化財)は、水戸藩の藩校で、徳川斉昭によって創設された。

明治以降、弘道館の正庁は長く学校の校舎として利用され、水戸城跡周辺を含め、文教地区となった。また、弘道館で指導された北辰一刀流剣術や水府流水術は、近傍の東武館や水府流水術協会に引き継がれている。



弘道館(正庁)

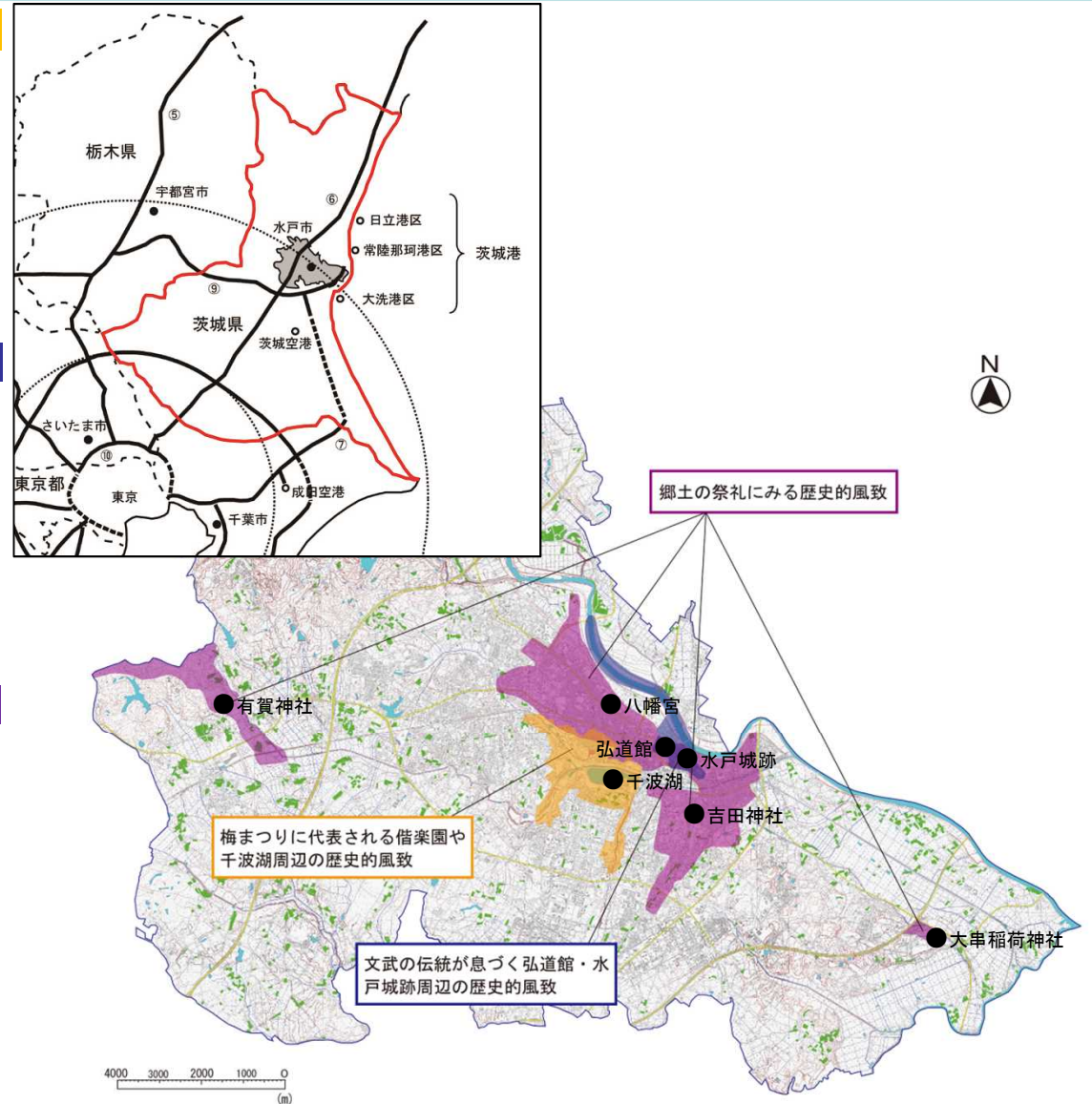
## 3.郷土の祭礼にみる歴史的風致

旧城下町やその周辺では、水戸城や水戸藩ゆかりの祭りが今も残されている。また、郊外の伝統ある祭礼も、水戸藩や旧城下町とゆかりのあるものが多い。これら祭礼は、八幡宮や薬王院といった歴史的建造物とあいまって、本市の貴重な歴史的風致となっている。

- ・下市に伝わる吉田神社の秋季祭礼
- ・古式ゆかしい八幡宮の祭礼
- ・武家のお祭り鹿島神社の祭礼
- ・東照宮祭礼と水戸黄門まつりからみる中心市街地の賑わい
- ・虫切りで知られる有賀神社のお磯下り
- ・風土記の里に伝わる「ささらばやし」



吉田神社の祭礼の様子(船渡神事)





# 水戸市の重点区域における施策・事業概要

重点区域の名称と面積  
 名称:水戸市歴史的風致保存・形成区域 面積:約1,160ha

第1期計画に引き続き、水戸城跡及びその城下町を中心とし、千波湖ほか外延部に位置する寺社仏閣等を含む範囲を重点区域に定めている。弘道館や偕楽園、水戸城大手門といった歴史的建造物の保存や整備を行うとともに、歴史的建造物の周辺環境の維持・形成を行う。また、歴史的風致とかかわりの深い民俗芸能の継承と保存に資する支援を行うことで、歴史的風致の向上と人々の歴史的風致への関心を高める。

## ①弘道館公園整備事業

保存活用計画に基づき、1857(安政4)年の本開館時の弘道館の姿を目標にして、展示改修や跡地整備、藩校時代の諸施設の再現の検討といった、段階的な整備を進める。



弘道館(至善堂) ▶

## ②偕楽園公園整備事業

保存活用計画に基づき、好文亭といった歴史的建造物の整備や景観整備といった文化財の本質的価値の質の向上を図る。あわせて、わかりやすい解説板設置やトイレ整備など、利用者の満足度向上に資する取り組みを行う。



偕楽園の梅林 ▶

## ④水戸城大手門・二の丸角櫓復元整備事業

市民との協働により、水戸城大手門と二の丸角櫓といった歴史的建造物の復元・整備を行う。



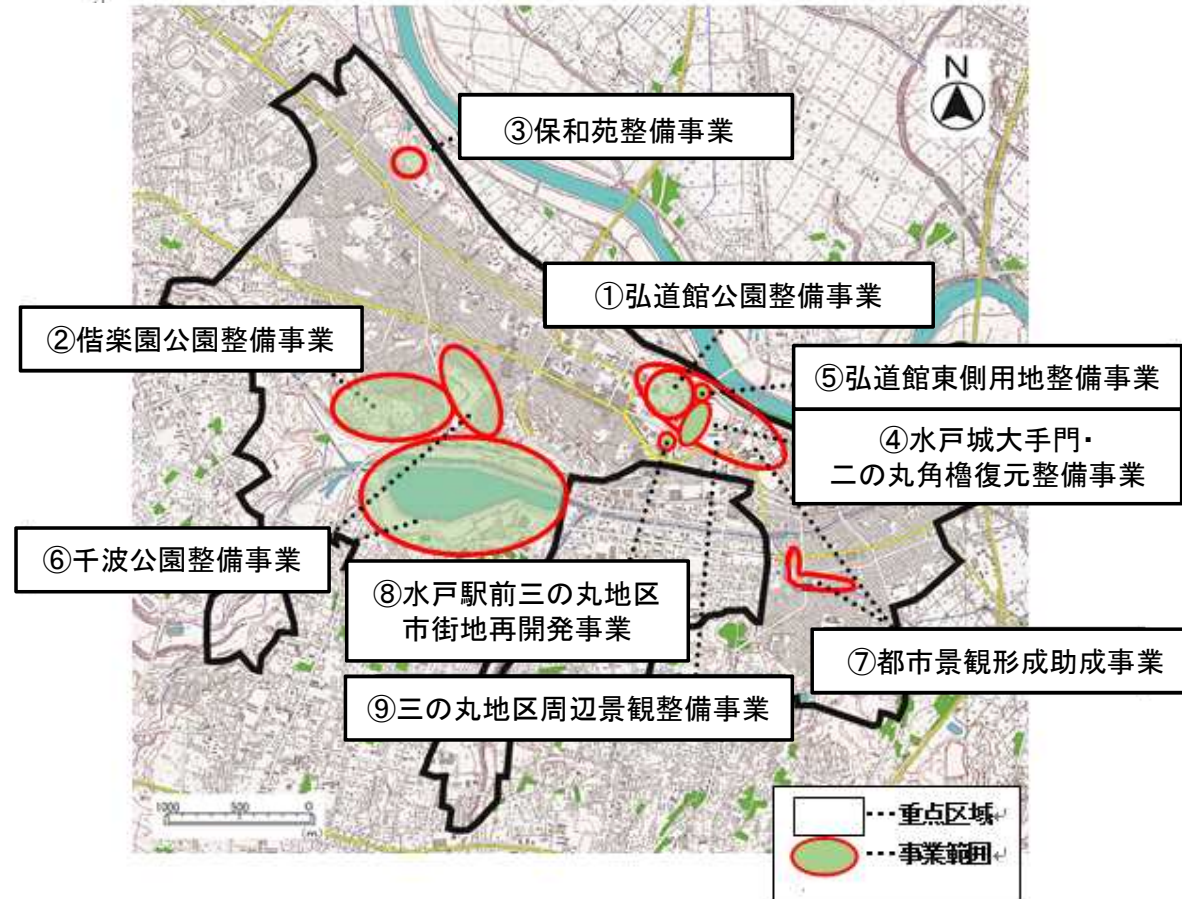
大手門の完成予想図 ▶

## ⑩水戸市民俗芸能文化財等伝承事業補助金交付事業

無形民俗文化財等の伝承保存及び後継者育成を図るため、活動団体に対して補助金を交付して、その活動を支援する。



大串のささらばやし ▶



### ■重点区域全域を対象とした事業

- ①弘道館公園整備事業
- ②偕楽園公園整備事業
- ③保和苑整備事業
- ④水戸城大手門・二の丸角櫓復元整備事業
- ⑤弘道館東側用地整備事業
- ⑥千波公園整備事業
- ⑦都市景観形成助成事業
- ⑧水戸駅前三の丸地区市街地再開発事業
- ⑨三の丸地区周辺景観整備事業

### ■市全域を対象とした事業

- ⑩水戸市民俗芸能文化財等伝承事業補助金交付事業
- ⑪民俗芸能実演支援事業
- ⑫文化財・まちなみ巡り事業
- ⑬観光周遊バス運行事業
- ⑭歴史的風致に関連した祭り開催支援事業
- ⑮歴史的風致情報発信推進事業